

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2016.10) 平成27年度:84.

「がん看護ジェネラリスト育成研修プログラム」の評価

岩崎 真実, 三浦 美佳, 黒崎 明子, 上田 順子, 濱田珠美

## 「がん看護ジェネラリスト育成研修プログラム」の評価

旭川医科大学病院 腫瘍センター ○岩崎 真実  
看護部 三浦 美佳 黒崎 明子 上田 順子  
看護学科 濱田 珠美

### 【背景】

A病院は、がん化学療法看護の専門的知識と技術を段階的に教育する「がん看護ジェネラリスト育成研修プログラム（以下プログラム）」を開発した。プログラムはがん化学療法看護を中心に展開し、プログレス1～4（以下プログレス省略）まで、全10回の研修を4年間で段階的に学ぶ構成で、1のみを卒後2年目の必修研修とした。昨年度、卒後5年目の看護師がプログラムを修了した。

### 【目的】

プログラムの効果を自己評価、他者評価、研修の学びから評価する。

### 【方法】

平成23年度から平成27年度の受講者（平成27年4月現在で退職、休暇の者を除く）の研修毎の到達目標の自己評価・他者評価、研修内容への活用の4段階評価の記述統計を行った。4の修了者から得た研修の学びの自由記載内容は質的分析を行った。本研究はA病院の倫理委員会で承認を得、対象者には文書で説明を行い、同意が得られた者を分析対象とした。

### 【結果】

受講者延べ248名（同意取得率77.0%）を分析対象とした。4-②の研修目標は「がん化学療法看護におけるベッドサイドケアでの課題の解決策を考えられる」で自己評価は達成できたが2名（22.2%）、ほぼ達成できたが7名（77.8%）、他者評価は達成できたが9名（100%）であった。研修内容の活用は全員が「活用できる」と回答した。4の修了者の自由記載では〈患者ケアの学びと自信〉〈患者・家族の人生を理解しケアする重要性〉〈アセスメント視点の広がり〉〈自己の傾向や課題の気づき〉〈専門性の発揮と役割モデル〉〈今後の研修希望〉が抽出された。

### 【考察】

プログラムは、がん化学療法を受ける患者・家族の理解を深め、がん化学療法看護の活用とケアに自信を高めるとわかった。また、自己の傾向や課題に気づき、患者・家族のアセスメント視点が拡大したことは、受講者の成長に繋がったと考える。今後は修了者ががん看護ジェネラリストとして各部署でのどのように役割モデルを発揮しているか検証する。